

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2016
平成28年
1月15日発行

No.36

題字 熊町小学校6年(平成22年度当時) 橋本 ^{みゆう}美優さん



笑顔で新年
元気いっぱい

大熊幼稚園の園児たち

12
月
定
例
会

コールセンター業務に4532万円 ④

新しい議会体制決まる ②

ズバリ町政を問う 5人が一般質問 ⑥

二人が表彰受ける(大熊町ソフトボール協会) ⑫

議長 鈴木光一 副議長 松永秀篤 新しい議会体制決まる

身近な開かれた

行動する議会を目指します

11月20日、初議会が招集され、議長に鈴木光一議員、副議長に松永秀篤議員を選出しました。
また各委員会の構成も決まりました。



副議長 松永秀篤



議長 鈴木 光一

新年あけましておめでとうございます。
希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
町議会は昨年9月の条例改正により、11月に実施された大熊町議会議員選挙から定数12名にて運営されており、全町民が避難をしいられ厳しい状況のなかで、町土の早期復興、生活支援、中間貯蔵施設建設および影響緩和策等の問題に積極的に対応してまいります。
大熊町の新たな復興課題解決にむけ議員一丸となり、町民の皆様
の代表としてその役割と責任の重さを自覚し

皆様のご期待に応えるよう、全力を尽くしてまいりますので、なお一層のご支援ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。
結びに皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、年頭並びに就任の挨拶とさせていただきます。



廣嶋公治 阿部光國
伊藤昌夫 加藤良一 仲野 剛

議会運営委員会

委員長 加藤良一
副委員長 仲野 剛

議会が円滑かつ効率的に運営します。
また議長の諮問機関でもあり、条例制定・改正や請願書の付託の取扱いを行います。

総務文教常任委員会

委員長 廣嶋 公治
副委員長 加藤 良一

大熊町の復興と町の宝である子どもたちの未来を守るのが総務文教常任委員会の役割です。
適正な運営をしているか、厳しくチェックします。

所管

総務課 税務課 企画調整課 出納室 議会事務局 教育総務課 選挙管理委員会 監査委員 固定資産評価審査委員会



佐藤照彦 仲野 剛 松永秀篤
堀川巨夫 廣嶋公治 加藤良一

産業厚生常任委員会

委員長 伊藤 昌夫
副委員長 阿部 光國

新しい町づくりと生活再建支援を町民の目線で実行していくのが産業厚生常任委員会の役割です。

所管

住民課 福祉課 健康介護課 環境対策課
生活支援課 復興事業課 産業建設課 いわき出張所 農業委員会 坂下ダム管理事務所



千葉幸生 吉岡健太郎
木幡ますみ 伊藤昌夫 阿部光國

広報公聴常任委員会

委員長 阿部 光國
副委員長 仲野 剛

読みやすく、分かりやすい議会だよりを目指します。
また、各地で活躍している町民の方々の活動を紹介します。



佐藤照彦 堀川巨夫 松永秀篤 加藤良一
木幡ますみ 阿部光國 仲野 剛

12月定例会

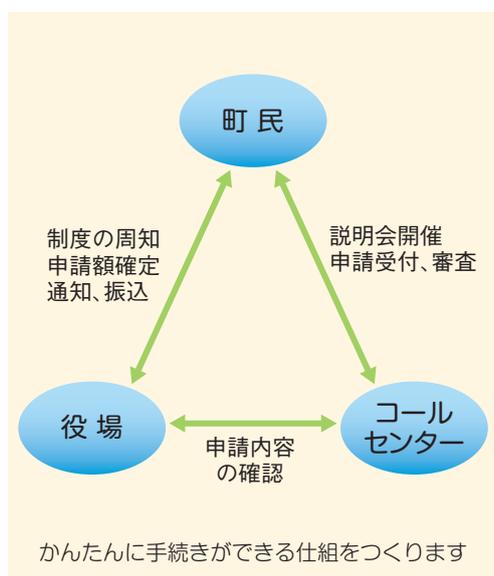
システム開発・説明会・申請審査など コールセンター 業務委託 4532万円

平成27年12月定例会は、12月9日から11日までの3日間の日程で開催されました。定例会では平成27年度補正予算、条例改正、副町長の人事など、12議案を審査し全議案可決しました。

一般会計補正予算では、中間貯蔵施設整備等影響緩和補助金事業のシステム開発や三森山の林道改良などが新たに追加されました。その中から主な事業を報告します。

コールセンター業務委託
4532万円

中間貯蔵施設整備等影響緩和補助金事業の運営が円滑にできるよう、事務局運営、説明会開催、システム開発などの業務委託です。補助金事業の詳細については、平成28年2月1日発行の広報おおくまに掲載されます。



三森山林道改良
350万円



大雨で三森山林道が流されたため復旧します。
住民のため速やかに復旧

副町長



【氏名】
吉田 淳
【任期】
平成28年1月1日から

副町長に吉田淳氏
投票により全会一致で同意

業務は適正か？

各事業をチエツク

補正予算、条例改正の審議を行い、業務は適正に行われているのか、各事業をきめ細かくチェックしました。主な質疑を報告します。

マイナンバー

問 マイナンバー制度導入により、印鑑登録と各種証明がコンビニで取得できる条例改正である。

答 7月～8月の大雨で三森山の林道が流された。近隣住民の帰宅が困難になったため復旧する。

アメリカで通報する。緊急事態に自動的に携帯電話に入るシステムである。

市に事務所を設置する。

問 説明会を30回程度行うとあるが、町政懇談会と兼ねるのか。

答 制度を理解していただくため個別の開催を考えている。

家庭内ごみ

問 帰還困難区域の家庭内ごみの回収はいつ頃実施するのか。

答 仮置場の確保など課題はあるが、平成28年3月下旬には事業を開始する予定である。詳細は広報おおくま

に掲載する。

放射線取扱主任者

問 職員の第3種放射線取扱主任者の取得者は何人か。

答 平成25年度4名、平成26年度12名が取得している。

第1種は2名いる。

家屋損壊調査

問 調査の進捗状況は。

答 申し込みが1137件で、353件が終了した。

大川原、中屋敷は終了しており、先行除染エリア・中間貯蔵施設建設予定地を優先的に進めている。

本人でなくても取得できると思うが、セキユリティは万全か。

答 コンビニの専用機にカードを通し暗証番号を入力し取得する。暗証番号を知り得ることは困難で、セキユリティは安全だと考えられる。

農道維持補修

問 農道維持に350万円計上しているが、補修の内容は。

緊急速報

問 いわき出張所出張所の修繕費用とは何か。

答 町内拠点整備のため会津若松出張所から職員の人事異動により増員されるため出張所内のレイアウトの変更を行う。

緊急メールとは

問 緊急メールとはどのようなシステムか。

答 一時帰宅などで大熊町にいる場合、エリ

コールセンターは

問 コールセンターはどこに置くのか。

答 双葉町と合同運営を考えており、いわき



早く処分して 家庭内のごみ



楽しかったよ～指人形劇（幼稚園、中学校の交流）

5人が一般質問

復興への課題をとらえて

ズバリ町政を問う

1. 加藤良一議員 7
具体的な整備時期の明記を
保育料を全額補助できないか
2. 廣嶋公治議員 8
地権者へ町独自の懇談会実施を
3. 木幡ますみ議員 9
住居周辺を細かく測定すべき
どの程度自由なのか
4. 千葉幸生議員 10
地権者の確認調査を早期に実施すべき
5. 伊藤昌夫議員 11
洋風タイプの墓地公園を

加藤 良一 議員



問 具体的な整備時期の明記を

答 優先施設の整備を示す

復興拠点整備

加藤 第二次復興計画では、平成29年度までに造成・インフラ整備

平成30年から施設の着手の予定になっている。

優先施設や具体的な整備時期の明記はなく、帰町判断となる庁舎、復興町営住宅、小売、医療など生活に欠かせない主要な施設はいつ設置されるのか。

早急にスケジュールを示すべき。

町長 事業をより早期に具体化させることが重要であり、時間との戦いであると考えている。

本年度UR都市機構に発注し、用地が確定しない中でも、具体的な土地利用に係る基本計画を進めている。

はやる気持ちを持ちつつも、越えるべきハードルは超えながら、可能な限り優先施設の

整備や前倒しの整備を示せるように努力する。

健康増進施設

加藤 帰町時期の平成

30年度までにパークゴルフ場をそなえた健康増進施設を設置すべきと考えるがどうか。

町長 健康増進施設は町民の帰還に向けた環境整備、町民の絆を維持するためにも、早期に整備が必要な施設と考える。

パークゴルフ場も、復興を果たし魅力ある街づくり、町民の帰還判断、新たに住民を呼び込むためにも重要な施設と考える。

問 保育料を全額補助できないか

答 現行の補助額の見直しを行う

加藤 児童が他自治体の保育所に入所した際の保育料を全額補助できないか。

町長 保護者の負担軽減を図るため、保育所徴収基準額を見直し、現行の補助額の見直しを行う。

加藤 医療費助成
社会保険加入者で震災当時は医療費の一部負担免除を受けていたにもかかわらず、当該医療保険が中止したことにより、一部負担金の免除が受けられなくなった人を対象に窓口負担分の医療費助成はできないか。

町長 社会保険加入者

で現在免除を行っている保険者の免除期間の見通しがつかない状況で、今後被保険者数の多い保険者の免除が打ち切られた場合多くの対象者が生じ、一部負担金の額が膨大になることが想定される。

財源の問題もあり、今後の動向を見据えながら検討することで理解したい。



町の宝 子どもの未来をどうまもるか



廣嶋 公治 議員

問 地権者へ町独自の懇談会実施を

中間貯蔵施設

答 時機を捉え開催する

廣嶋 中間貯蔵施設受

け入れ判断は、環境省の地権者説明会、候補地内8行政区長の申し入れ書提出を受け、昨年12月に受け入れを判断した。

これを受け町政懇談会を実施し、受け入れ判断に至った経過説明をして、町民より意見や要望の聞き取りをした。

しかし環境省・町は「検討中の」「国へ要望する」との回答にこだわっており、その対応に

地権者は不安と不審感を抱いている。

先月、国より現地調査を終了した地権者へは今年度中の補償内容提示を目指すとの発表があった。

町は受け入れ判断をした以上、地権者から出された意見・要望に応えるため町独自の懇談会を実施すべき。

町長 町の復興、町民

の生活再建に一刻も早く舵を切るため町として判断を行った。

地権者の皆さんには様々な思いや課題があり、国へはできる限りの対応をするよう強く求めて来た。

先月の大臣会見はその一端が示されたと理解している。

現在、町は相談窓口を設置しており、環境省も県内4力所に相談窓口を開設している。その上で事業主体の環



地権者に響かない説明会

境省が積極的に動くことが物事の進展につながると考える。

今回の大臣発言を受けてどのような目に見

える動きがあるか注視し、町政懇談会を例年実施しているが、時機を捉え同様な形式で開催していく。

催していく。

木幡ますみ 議員



問 住居周辺を細かく測定すべき

空間線量

答 わかりやすい表現に努める



空間線量は細かくチェック

木幡 平成25年度の大熊町内放射性物質濃度調査結果の小冊子には1ベクレルは問題ないと記載してあるが、天然水中のトリチウム濃度は1リットあたり約1ベクレルではなく、1ベクレル以下という報告書がある。(東京アイ

ソトープ総合研究所報告第15号)

この事を考えると大熊町は天然レベル以上であり、原発事故の影響であると言える。また、生物への影響が大であるストロンチウム90は水に溶けやすい性質のため、水中濃

木幡 中間貯蔵建設により影響緩和交付金として461億円交付されている。これは、極めて自由度の高い交付金と聞いているが、どの程度自由度が高いのか。また、具体的な事業展開は考えているのか。

町長は、帰れない方々にも支援をしていくと言っているが、ど

影響緩和交付金

問 どの程度自由なのか

答 国の交付金であり自由給付はできない

度の測定と外部被曝評価のために住居周辺の空間線量を細かく測定するべきである。

また、土壌中の放射性物質が報告されているが、単位面積あたりの蓄積で表示すべきである。

町長 トリチウム濃度については、福島県内の上水中のトリチウムの分析結果を参考にしたい。

福島県内では、検出限界値が0.4ベクレル未満から1.2ベクレルとなっている。天然水中には約1ベクレルの天然

の様な支援を考えているのか伺う。

町長 中間貯蔵施設整備等影響緩和交付金に関して、町では使途に制限のない交付金制度を要望していた。町民の皆様幅広く公平に交付できる仕組みを国と協議していく。

しかし国の交付金である以上、自由に給付

由来のトリチウムが含まれていると記載した。今後は測定を継続してよりわかりやすい表現に努めるとともに、経過の観察を行っていく。

する事は出来ないという制約のある中、町としてもベストとは言えない内容であるが、この方法で実施して行かざるを得ない状況にある。

伊藤 昌夫 議員



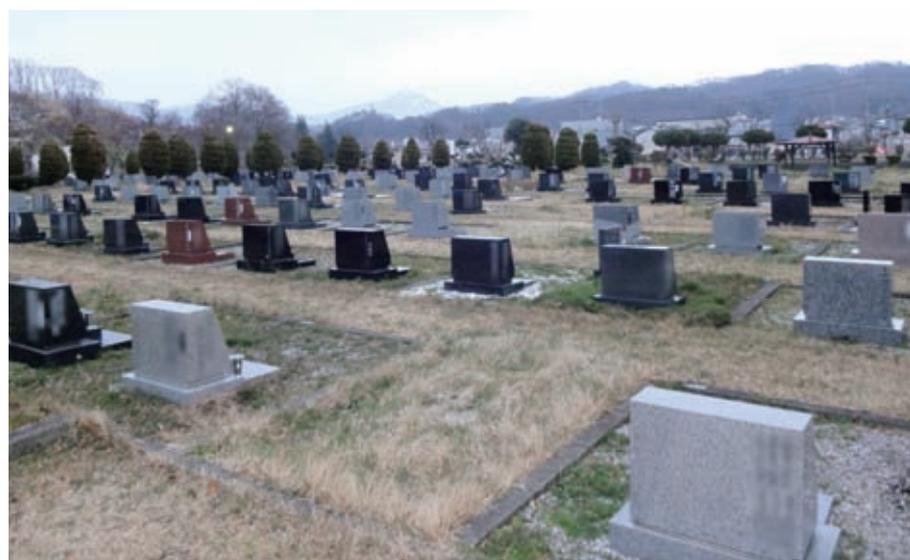
問 洋風タイプの墓地公園を

町営墓地

答 大熊町ならではの墓地にしたい

伊藤 中間貯蔵施設建設予定地や帰還困難区域内に墓地を所有している方々から、自由にお墓参りできる場所における共同墓地建設の要望が数多く寄せられている。これに対し先般町から、大川原西平地区内に建設される予定地が示されたところである。建設するにあたっては、四季折々に花が咲き墓石もコンパクトで景観にも優れる洋風タイプの墓地公園建設を提案する。

最近墓地に対する考え方、価値観も大分変わってきているが、先祖を敬い感謝の心で供養していく気持だけは持ち続けていきたい。早期建設はもちろん大事だが、永代にわたって使用する墓地だけに町民がどの様な墓地を希望しているのかを見極めることが重要であ



整然と並ぶ霊園墓地

る。そこで第一に、町では町民のニーズをどの程度把握して墓地建設を進めているのか。第二に、墓地建設計画全般の絵姿と、いつから使用可能なのか建設工程を伺う。

町長 自由にお墓参りが出来ない事に対し、新たな町営墓地の要望があったので、今年3月に墓地に対する意向調査を実施した。3月31日現在の集計では、597名の方から解答をいただき、2

06件の希望があった。利用する場合の希望するサービスとしては、墓地の除草・清掃や法要が出来る施設の希望があった。この結果を基に、用地として大川原西平地内に6畝ほどの土地の地権者に墓地建設についての説明が終了し、用地について一定の目途がついた。公園的な要素も十分に取り入れることが出来る面積で計画しているが、他の墓地の例を参考にしながら、町民の多くのニーズに応えられる、大熊町ならではの墓地を建設したいと考えている。

分譲する区画数については、需要を見ながら拡張することを前提に最終的には1000区画程度を考えている。区画の広さについては、中央台霊園を参考

に検討するとともに、最近需要が高まっている洋風タイプの墓石が整然と並ぶ区画の設置などを検討している。また、供用開始時期についてはなるべく早くと考えているが、用地の取得、設計、許認可を経てから建設となるので、ある程度の期間を要する。建設の目途がついた時点での申込受付開始を考えている。具体的には平成28年度末を目標としている。

福島県全域を駆け巡り、心をこめてジャッジ

今野・島原氏、

二人が表彰を受ける



今野 盛雄 氏



島原 健二郎 氏

12月5日、会津若松市ソフトボール協会より、日頃の功績を称え、大熊町ソフトボール協会の審判員2名が表彰されました。震災後、会津若松市ソフトボール協会審判委員会に加入し、毎年5月から10月までの半年間活動しています。

二人は日本ソフトボール協会公認第1種を取得されており、社会人から学生まで幅広く派遣され、年間50試合以上を務めています。

避難後は審判の機会がない時期が続きましたが、会津若松市審判委員会の仲間となり、貴重な存在として楽しく活動しています。

大熊町ソフトボール協会

編集後記

昨年の11月に、町議会議員選挙が執行され、新たに12人の議員が選出されました。

広報公聴委員会も7人の新しいメンバーでスタートしております。全国で生活している町民の皆様を読みやすい、わかりやすい議会だよりをつくり届けていきます。

また、各地で活躍されている方々も合わせて紹介させて頂き、町民同士の絆も広げて参りたいと思います。

広報公聴委員長 阿部 光國

広報公聴常任委員会

委員長	阿部 光國
副委員長	仲野 剛
委員	佐藤 照彦
委員	木幡ますみ
委員	加藤 良一
委員	堀川 巨夫
委員	松永 秀篤
発行責任者	鈴木 光一